令和元年　12月　16日

平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　20人	算数　20人	理科　20人
第５学年	国語　19人	算数　19人	理科　19人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

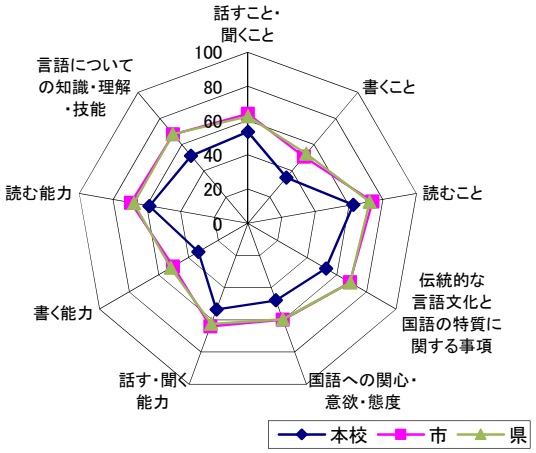
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	53.5	64.0	62.5
	書くこと	35.0	50.9	53.1
	読むこと	62.5	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.7	68.9	69.1
観点	国語への関心･意欲･態度	47.8	59.9	59.7
	話す･聞く能力	53.5	64.0	62.5
	書く能力	33.3	50.4	52.0
	読む能力	58.4	69.3	67.6
	言語についての知識･理解･技能	51.6	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

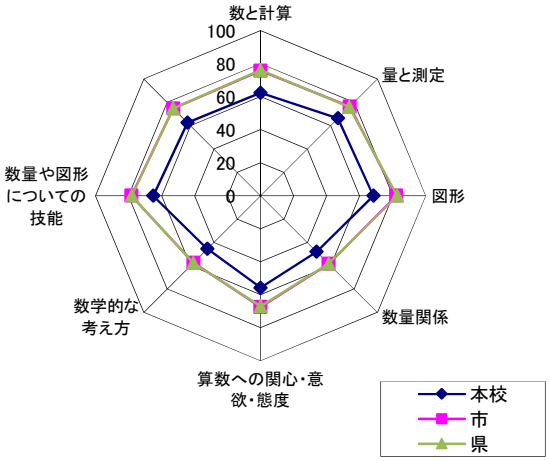
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○大事なことを落とさないように聞き取ることは9割以上の正答率であった。話合い活動などで，相手の考えやその理由をよく聞くことができるように指導を行っている成果である。 ●平均正答率は，市の平均と比べて10．5ポイント低い。●話題に沿った意見と理由を考えて話すことについて課題が見られる。	･授業において聞き手を意識して分かりやすく話す練習をするとともに，学年の行事や総合的な学習での発表において，学んだことを生かして取り組めるようにしていく。 ･教室に掲示してある「学び合う発表のしかた」に従い，話型を使って発表したり，相手の考えやその理由をよく聞いたりするなど，基本的な話し方や聞き方を今後も指導する。
書くこと	●平均正答率は，市の平均と比べて15．9ポイント低い。 ●指定された長さで書くことや，2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。	･書くことに苦手意識を持たせないように，書くことに慣れさせる。そのために，日記指導の徹底を図ったり，行事等の振り返りの作文指導を行う。 ･理由や事例を挙げて書かれた説明文の構成を生かして，伝えたいことを分かりやすく書けるようにする。
読むこと	○登場人物の気持ちを読み取ったり，説明文の内容を的確に読み取ったりすることは市の平均と同程度だった。叙述をもとに読む指導を行っている成果である。●平均正答率は，市の平均と比べて11．4ポイント低い。 ●段落の役割を理解して，文章の内容を的確に読み取ることについて課題が見られる。	･説明文を読む際には，目的に応じて中心となる語や文を考えながら段落の要約する活動を取り入れるとともに，接続語などに着目して，前後の段落との関係も考えさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みについては正答率が高い。 ●平均正答率は，市の平均と比べて16．2ポイント低い。 ●漢字を書くことについて課題が見られる。 ●文の構成（主語と述語）や国語辞典の使い方について課題が見られる。	･自主学習の内容に学年の漢字だけでなく，前の学年の漢字の練習を取り入れることで，確実に身に付けさせる。 ･語彙力高めるために，言葉の意味調べなどの時間を朝学習などを利用してつくる。 ･文法に関しては，復習プリントを利用して，既習の内容についても繰り返し取り組ませることで確実に定着させる。

宇都宮市立篠井小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.4	75.8	76.1
	量と測定	66.4	76.5	76.0
	図形	68.3	82.1	82.7
	数量関係	48.0	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	55.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	45.5	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	65.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	62.6	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

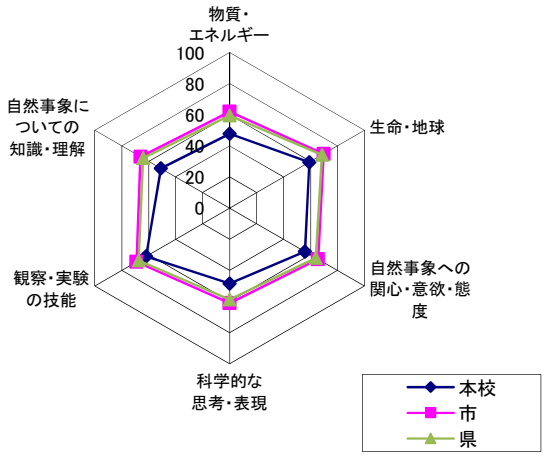
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大問1（4）の九九の計算の正答率が100％であった。 ●数と計算の正答率が市平均を13．4％下回っている。 ●「整数－小数」の計算の正答率が50％であり，小数が混ざった計算の力の定着が課題である。 ●「2けた÷1けた＝1けた」の計算の正答率が市平均よりも下回っているが，中でもあまりのある計算の正答率が大幅に下回っている。	・基礎的な計算が定着していない児童がいるため，復習プリントや朝学の時間を活用して，計算力を補っていく。 ・小数の計算やあまりのある割り算の計算方法について，授業の中で復習を行うとともに，個別につまずきを分析し指導を行う。
量と測定	○「1分＝60秒」の関係を理解している児童が7割と，市平均に近い数字を得ている。 ●量と測定の正答率が市平均を10．1％下回っている。軽微なミスも比較的多い。 ●道のりの意味が理解できている児童が55％と多くない。	・軽微なミスを防ぐため，日頃から正確に計算するように促すとともに，問題の意味を考え，自分なりの考えを持つように指導する。 ・それぞれの単位について復習することで，単位の関係について整理させ，量について定着を図る。
図形	○円の直径や半径について理解できている児童が7割を超えている。 ○大問12の（1）（2）の正答率が両方とも70％であったことから，円について理解できている児童がほとんど全員文章題に解答できたと考えられる。 ●図形の正答率が市平均を13．8％下回っている。 ●作図の正答率が65％であり，市平均を24．8％と大きく下回っている。	・普段の授業から，コンパス・定規を使うことに慣れ親しむ場を設けるとともに，基本的な作図の仕方を習得させ，正確に描けるよう指導する。
数量関係	●数量関係の正答率が市平均を10．4％下回っている。特に文章問題になると諦めてしまう児童が多い。 ●□を用いた計算の構造を理解できている児童は多いが，自分で式を立てるところまで結びついていない。 ●棒グラフの読み取りの問題や目盛りの大きさと値に着目して答える問題の正答率が特に低かった。	・正答率が全体的に低かった問題については，授業で解き直しを行い，宿題などで繰り返し復習し，定着を図る。 ・文章問題の苦手意識を取り除くため，普段の授業から問題を図や言葉で表したものを式にして，自分なりに答えを導くように指導する。

宇都宮市立篠井小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.7	61.9	59.4
	生命・地球	59.1	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	55.8	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	48.4	61.0	58.8
	観察・実験の技能	62.0	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	51.0	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○2つのおもちゃを比較して，ゴムのはたらきについて推測することができている。結果を記録するだけでなく，知識として認識できるように学習をまとめて記述させた成果であると考えられる。 ○電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明することができている。科学的な言葉を使って説明し合う学習を取り入れた成果であると考えられる。 ●はね返した光を重ねたところの明るさを理解することに課題が見られる。 ●豆電球がつかなかった理由を推測することに課題が見られる。	・実験を行う際は観点を与え，対象物の差異や共通点について考えながら観察させ，図や言葉でまとめることを通して理解を深める。 ・実験結果を考察する場面では，基本的な語句を適切に使いながら自分の言葉で，説明できるように指導する。
生命・地球	○ダンゴムシのすみかを理解することができている。身の回りの昆虫に興味を持ち，観察してきた成果であると考えられる。 ○温度計を正しく読むことができている。植物や昆虫の観察記録に，その日の気温を計り，記入してきた成果であると考えられる。 ●植物の育つ順序を理解することに課題が見られる。 ●モンシロチョウがたまごから成虫になるまでのおよその期間を理解することに課題が見られる。	・今後も身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，それらの様子や周辺環境，成長の過程や体のつくりに着目して，それらを比較しながら調べる活動を取り入れていく。 ・生き物の観察をする際には，複数の種類の生き物を比較しながら，差異点や共通点を基に問題を見いだし，図や言葉で表現する活動を取り入れることで理解を深める。

宇都宮市立篠井小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に肯定的に回答している児童の割合が，市や県の平均を大きく上回っている。自分の考えを表現しようとする意欲の高まりが見られる。今後も各教科・領域において言語活動を重視した指導の充実を図っていく。

○「授業の中で，目標（めあて・ねらい）がしめされている」「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」という質問に肯定的に回答している児童の割合が市や県の平均を１０ポイント以上上回っている。学校全体の取組として，ねらいの明確な提示と流れが分かりやすい授業展開を心がけてきた成果の表れと言える。

○「自分には，よいところがあると思う」「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問に肯定的に回答している児童の割合が，市や県の平均を大きく上回っている。「先生は学習のことについてほめてくれる」や「家の人は，あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」という質問に肯定的回答をした児童の割合が９０％に達していることから，周りの人から認められることで自尊感情が高まっていると考えられる。

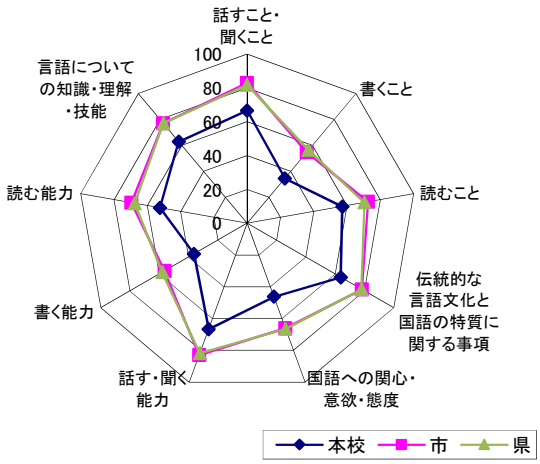
●「学校の授業時間以外に，ふだん，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」という質問に対して，「３０分より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が３０％，「学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」という質問に対して「１時間より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が75%いる。また，「学校の授業時間以外に，ふだん，１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」という質問に対して「10分より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が40%いる。家庭での学習や読書について，家庭での時間の使い方と合わせて懇談会などで啓発する。

●「本やインターネットなどを利用して，勉強に関するじょうほうを得ている」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」「自然やうちゅうなど，科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」という質問に肯定的に回答している児童の割合は，市や県の平均を20ポイント前後下回っている。様々なことに興味・関心をもったり，自ら調べたりといった，学習に対する意欲が低いことが分かる。興味・関心が高まるような問題の提示の仕方を工夫したり，自分で調べる技能を確実に習得させたりすることによって，主体的な学習活動につなげる。

宇都宮市立篠井小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	66.7	82.9	81.8
	書くこと	34.7	54.8	56.5
	読むこと	57.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.9	78.4	78.1
観点	国語への関心･意欲･態度	46.2	66.0	66.4
	話す･聞く能力	66.7	82.9	81.8
	書く能力	36.3	56.3	57.9
	読む能力	52.3	69.5	67.6
	言語についての知識･理解･技能	62.9	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

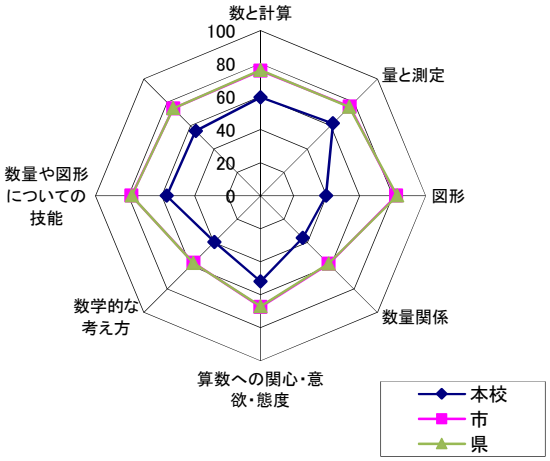
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の中心に気を付けて聞き取ることは，ほぼ8割の正答率で，話し方聞き方の約束などで具体的に指導した成果であると考えられる。 ●平均正答率は，市の平均と比べ16．2ポイント低い。	･学校行事や学年の行事または，総合的な学習での発表において，国語の授業で学んだことを生かして自信をもって取り組めるようにしていく。 ･授業中の話合い活動などの学び合いを通して,友達の意見や考えを自分の学びに生かせるような授業の展開を心掛けることで，話す，聞く力を向上させる。
書くこと	●平均正答率は，市の平均と比べ20．1ポイント低い。 ●ポスターを作ることや作文を書くことは，苦手意識が高く正答率も市の平均を下回っている。また，無回答が40%近く見られるので，作文や資料にまとめる学習に対しての課題が見られた。	･書くことに苦手意識をもたせないように，書くことに慣れさせる。そのために，日記指導の徹底を図ったり，行事等の振り返りの作文指導を行う。 ･社会科や理科のまとめ新聞作りや，総合的な学習での発表の原稿つくりなどの機会には，国語の授業で学んだことを生かして，資料に分かりやすくまとめる体験を繰り返し行うことで，資料作りへの苦手意識を減らす。
読むこと	○物語文･説明文共に内容の読み取りは，ほぼ8割の正答率であった。音読指導に力を入れてきた結果であると思われる。 ●平均正答率は，市の平均と比べ15．5ポイント低い。 ●登場人物の気持ちを読み取ったり，段落のまとまりを理解して内容を読み取ることに課題が見られた。	･読書の奨励を行い，いろいろな読み物に触れる機会を増やすことで，読書への関心を高める。 ･読み取りの学習では，段落や文のまとまりを意識して，文章の構成を理解させるように指導する。 ･物語の読み取りにおいては，登場人物の気持ちを自由に想像したり読み取ったことを友達と交流したりすることで，登場人物の気持ちに沿いながら読み深められるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みに関しては，正答率が高い。 ●平均正答率は，市の平均と比べ14．5ポイント低い。 ●漢字を書くことに関しては，課題がある。 ●言葉の学習に関しては市の平均正答率を下回っており課題が見られた。	･自主学習の内容に学年の漢字だけでなく，前の学年の漢字の練習を取り入れることで，確実に身に付けさせる。 ･語彙力高めるために，言葉の意味調べなどの時間を朝学習などを利用してつくる。 ･文法に関しては，復習プリントを利用して，既習の内容についても繰り返し取り組ませることで確実に定着させる。

宇都宮市立篠井小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.6	75.8	76.1
	量と測定	62.0	76.5	76.0
	図形	39.6	82.1	82.7
	数量関係	36.1	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	51.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	39.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	56.9	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	55.6	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

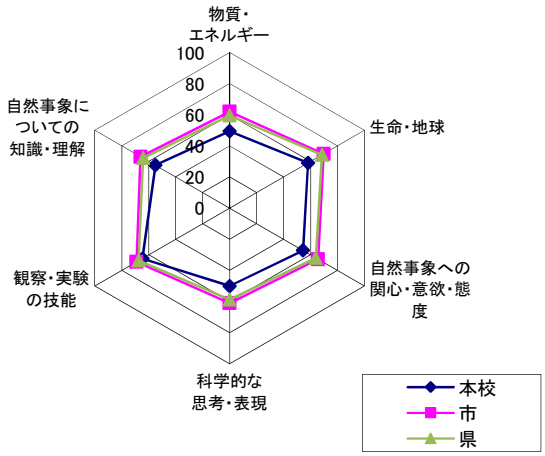
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○整数のわり算の計算については，正答率が高くなっており，整数を用いた計算の基礎が定着してきていることが考えられる。 ●平均正答率は，市の平均と比べ16．2ポイント低い。 ●小数のたし算，ひき算，わり算の計算，分数の計算，単位換算，概数については課題が見られる。	・小数や分数の計算を中心に，確実な計算力を身につけられるよう，繰り返し練習する。 ・単位換算や概数については，関係のある単元の学習の際などに復習する機会を設定し，基礎・基本の理解の定着を図る。
量と測定	○身近にあるもののおよその面積の理解については，正答率が高くなっており，面積の大きさなどが具体的にイメージできていると考えられる。 ●平均正答率は，市の平均と比べ14．5ポイント低い。 ●角の大きさ，長方形の辺の長さを求めることについて課題が見られる。	・分度器の使い方について確認し，正確に測定ができるよう継続して指導を行う。 ・面積の求め方だけでなく，図形の周囲の辺の長さについて復習する機会を設定していく。
図形	●平均正答率は，市の平均と比べ42．5ポイント低い。 ●四角形の対角線，直方体，平行四辺形の性質の理解について課題が見られる。	・図形の性質について，基礎から復習をする機会を設定し，四角形の図形の特徴などを改めて整理させて，理解につなげる。
数量関係	●平均正答率は，市の平均と比べ22．3ポイント低い。 ●計算のきまりや変わり方を調べること，折れ線グラフと棒グラフを読み取ることについて課題が見られる。	・自分の考えを根拠をもって説明できるように，授業中など自分の考えを文章や言葉で表現する機会を多く設定していく。

宇都宮市立篠井小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.4	61.9	59.4
	生命・地球	58.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	54.3	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	50.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	64.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	55.1	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○水を熱したときの温度変化のグラフの理解については，県の正答率を16．7ポイント上回っている。 ●平均正答率は，市の平均と比べ13ポイント低い。 ●金属のあたたまり方をもとに，ゼムクリップのたおれる順番を推測する問題では，県の正答率と比べ42．8ポイント低くなっており，ある事象に対して根拠をもって予想や推測をする力が弱くなっていると考えられる。	・各実験を行う前に，結果を予想する時間をとり，根拠をもってその理由も一緒に考えられるようにする。 ・実験の結果から分かったことについて，自分の言葉でまとめる活動を通して，自分の考えを整理し，理解を深める。
生命・地球	●平均正答率は，市の平均と比べ14．3ポイント低い。 ●１年間の動物の様子，半月の動き方，蒸発についての理解についての問題では，それぞれ県の正答率を27．1ポイント，29．5ポイント，34．8ポイント下回っている。生命や地球に関する基本的な事象の理解が不十分であると考えられる。	・理科に関する各事象の名称や，その内容等，既習事項を繰り返し活用することで，基本的な知識理解の向上に努める。また，単元の中だけで取り上げるだけでなく，他の授業の中や学年が上がった後も，復習の時間を取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校の宿題は，自分のためになっている」「学習をして身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問に肯定的に回答している児童の割合はいずれも100%である。また，「次の教科などの学習は，しょう来のために大切だと思いますか」という質問に肯定的に回答している児童の割合も，ほとんどの教科で90%を超えている。学習することの意義や大切さを実感できていると思われる。これが学習への意欲にしっかりつながるように，授業のさらなる改善を図っていく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に肯定的に回答している児童の割合が，市や県の平均を大きく上回っている。自分の考えを表現しようとする意欲の高まりが見られる。ただ，「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に肯定的に回答している児童の割合は，市や県の平均よりやや低い。今後も各教科・領域において，一人一人が発表できることはもちろん，それが話し合いへとつながっていくように，言語活動を重視した指導の充実を図っていく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、「30分より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が13%、「学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して「１時間より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が70%近くいる。また、「学校の授業時間以外に、ふだん、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対して「10分より少ない」もしくは「全くしない」と回答した児童が35%近くいる。さらに、「時間を上手に使うことを、心がけている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、市や県の平均を大きく下回っている。家庭での学習や読書について、家庭での時間の使い方と合わせて保護者にも協力を仰ぎながら指導する。

●「学校のきまりを守っている」「家でのきまりや約束を守っている」という質問に肯定的に回答している児童の割合が，市や県の平均より、10ポイント以上下回っている。規範意識がやや低い様子が見られる。今後も家庭と協力しながら、きまりの意義を考えさせたり、自分だけでなくみんなが気持ちよく過ごすための生活の仕方を考えさせたりすることで、規範意識を高める。

●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分がもっている能力を十分に発きしたい」という質問に肯定的に回答している児童の割合が，市や県の平均より、10ポイント以上下回っている。また、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問に肯定的に回答している児童の割合も、市や県の平均とほぼ同じではあるが、52．2%にとどまっている。学校での諸活動の中で、高学年としての役割を果たし、それを認められることが、自己有用感を高める一つの手立てと考え、意図的にその場や機会を設けていく。

宇都宮市立篠井小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着と，学び合い	・ねらいを明確にし，学習の流れが分かりやすい授業展開 ・家庭学習の習慣化を図るための自主学習計画の活用 ・朝学習を利用した復習の徹底	・学習意欲が低い。 ・家庭学習の時間が市の平均より低い。 ・すべての教科において，市の平均より正答率が低い観点が見られる。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎学力の確かな定着	・分かりやすい授業の展開 ・個に応じた指導 ・復習問題の繰り返しの実施	・学習パターンの統一化 ・3年生以上でのTTによる算数の実施，習熟度別学習の実施 ・全校一斉でのマスターカードの実施